

地方独立行政法人堺市立病院機構 令和3年度計画

(令和3年9月改訂)

はじめに

第3期中期計画の初年度となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行する中、堺市二次医療圏唯一の感染症指定医療機関として、地域の中心となり体制整備及び診療に対応した。情勢の変化に迅速に対応できるよう、行政、地域の医療機関との連携のもと診療体制の確保に努め、輪番制での発熱外来や地域外来検査センターを設置した。また、院内の体制としては、新型コロナウイルス感染症を最優先とし、入院を要する患者を受け入れるため、人的・物的資源を集中的に投入する必要があることから一部の病棟を閉鎖し、新型コロナウイルス感染症専用病床の運用を開始した。医療者の配置をはじめ医療機器の拡充、マニュアルの整備等職員が一丸となり、対応に努めた。

令和3年度計画の策定に当たっては上記のような対応をしながらも、ワクチン接種の普及等により徐々に従来の医療に戻ることを想定した計画であったが、半期を目前に感染は収束の兆しが見えない状況である。

そこで、新型コロナウイルス感染症に対応しながらも、真に地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供するという公的使命を果たすことを目的に当該計画を見直し改訂することとする。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 市立病院として担うべき医療

(1) 救命救急センターを含む救急医療

- ・ 新型コロナウイルス感染症が拡大している現状においては、三次救急医療機関として重症患者の診療体制を維持し、重症患者を受け入れる。
- ・ 厚生労働省充実段階評価において、S評価を維持する。
- ・ 救急外来ERにおける診療体制を充実させ、受け入れ体制を拡張した救急診療を行う。
- ・ 堺地域メディカルコントロール体制のもと堺市消防局や地域の医療機関と連携し、地域完結型医療に向けて、堺市二次医療圏の救急医療体制の充実に協力する。
- ・ 堺市消防局救急ワークステーションとの連携によるドクターカーの運用のほか、救

急救命士の採用を行うなど病院前救急医療体制を整備する。

- ・ 精神科医によるコンサルテーションのもとチーム機能をより充実させ、精神科身体合併症救急患者へのリエゾン介入を強化させる。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ 感染拡大の影響により搬送先選定が困難な緊急を要する救急患者を受け入れられるよう、地域の医療機関と輪番体制を構築し1人でも多くの命を守る。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 救急搬送応需率 | 78.6% | 77.9% | 78.0% |
| 三次救急搬送応需率 | 92.0% | 91.9% | 90.0% |

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|----------|-------------|-------------|
| 救急搬送受入件数 | 9,444 件 | 7,440 件 |
| うち入院件数 | 3,651 件 | 3,180 件 |

(2) 小児医療

- ・ 小児に特化した血液や内分泌等の専門外来を拡充し、地域の小児医療の充実に貢献する。
- ・ 小児のてんかんや食物アレルギー等について、地域の医療機関と連携した診療システムを構築する。
- ・ 隣接する堺市こども急病診療センターや地域の医療機関と密接な連携を継続し、24時間365日外因性疾患を含めた総合的な小児二次救急医療を安定的に提供する。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ 大阪府内において小児の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる医療機関が少ないことから、感染症指定医療機関として積極的に受け入れる。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|--------------------|-------------|-------------|-------------|
| 小児救急搬送（内因性） 応需率 | 96.2% | 98.2% | 90.0% |

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|-------------|-------------|-------------|
| 小児救急搬送受入件数 | 1,754 件 | 988 件 |
| うち外因性疾患受入件数 | 403 件 | 375 件 |
| CAPS 対応件数 | 94 件 | 70 件 |

（3） 周産期医療

- ・ 総合及び地域周産期母子医療センターとの密な連携のもと、地域全体で安全で安定的な周産期医療を提供する。
- ・ 総合病院としての強みを活かし、合併症を有する妊婦に対し、他科との連携のもと、総合的な周産期医療を提供する。
- ・ 院内助産等に対応し、妊婦やその家族のニーズに対応した出産を目指す。
- ・ 安心して地域での子育てを实践できるよう技術や知識を習得できる産後ケア病床の運用を開始する。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ 新型コロナウイルス陽性妊産婦を受け入れる数少ない医療機関として、妊娠中や新生児を含む分娩時など時期に応じた迅速かつ安全に入院できる体制を維持する。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|------|-------------|-------------|
| 分娩件数 | 321 件 | 256 件 |

（4） 災害・感染症・その他緊急時の医療

- ・ 災害拠点病院として三師会等と連携し、教育、研修及び訓練を行う。
- ・ 災害派遣医療チーム（DMAT）は、堺市地域防災計画に基づく災害医療活動や他の地

域への災害時出勤要請があった場合には、迅速かつ適正に医療支援活動が行えるよう、引き続き訓練や研修会等への参加は遠隔研修を選択する等感染対策を徹底し技術や知識の収集を行う。

- ・ 多数傷病者受入れマニュアル等を更新し、万全な体制を維持する。
- ・ 感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症に対応できるよう、院内整備を行い、地域の医療機関及び行政と密に連携し、危機管理体制を充実させる。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ 堺市二次医療圏を中心として大阪府における新型コロナウイルス感染症患者等に対応する中心的な医療機関としての役割を維持する。
- ・ 堺市の医療施策として求められる救急医療及び高度医療等について、新型コロナウイルス感染症への対応を最優先としながらも地域の医療機関と協力し、職員が一丸となって最大限の医療を提供する。
- ・ 職員が疲弊することがないように適切な勤務体制の整備やメンタルケア等に組織として取り組み、持続可能な医療提供体制を維持する。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|------------|-------------|-------------|
| 災害研修・訓練回数 | 18回 | 6回 |
| DMA T資格保有者 | 31人 | 30人 |

2 生活習慣病への対応

(1) がんへの対応

- ・ 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線療法、免疫療法を含む化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療と複数診療科の連携による質の高いがん医療を提供する。
- ・ 相談しやすいがん相談体制を提供するとともに地域の医療機関との連携を通して、緩和期や終末期においても継続した包括的ながん医療を提供する。
- ・ 院内及び院外でがんゲノム医療が浸透するように、検査やカウンセリングの啓発を行う。
- ・ 緩和地域連携パスの充実やスクリーニングの対象を拡大するなど、緩和ケアを推進する。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ 急速に感染が拡大したこと等の理由により手術の延期や転院が必要となった患者に適切な医療が提供されるよう、地域の医療機関と連携し対応する。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|------------|-------------|-------------|-------------|
| 悪性腫瘍手術件数 | 1,322 件 | 1,092 件 | 1,050 件 |
| 放射線治療実施患者数 | 468 人 | 498 人 | 485 人 |
| 化学療法実施患者数 | 2,650 人 | 2,257 人 | 2,650 人 |
| がん登録件数 | 2,014 件 | 1,729 件 | 1,700 件 |

※がん登録件数は1月～12月実績

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|---------------|-------------|-------------|
| 緩和ケアチーム介入件数 | 658 件 | 533 件 |
| がんリハビリ実施件数 | 2,890 件 | 5,915 件 |
| がん相談件数 | 5,064 件 | 4,981 件 |
| セカンドオピニオン対応件数 | | |
| 当院から他院 | 62 件 | 40 件 |
| 他院から当院 | 32 件 | 18 件 |

(2) 高度・専門医療の包括的提供

- ・ 急性心筋梗塞については、重症度の高い患者が受け入れられるよう、循環器疾患センターとして応需体制を維持する。
- ・ リハビリテーション部門の体制を強化し、脳卒中・急性心筋梗塞患者の早期離床に向け早期リハビリテーションの充実に取り組む。
- ・ 日本脳卒中学会による一次脳卒中センター（Primary Stroke Center:PSC）の認定を維持するとともに、さらに脳卒中治療を充実させる。
- ・ 脳卒中ケアユニット（Stroke Care Unit:SCU）の開設に向け準備する。
- ・ 地域循環型システム構築を目的に、糖尿病合併症チェック外来開設に向け準備する。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|
| 脳血管内手術件数 | 50件 | 41件 | 50件 |
| 心大血管手術件数 | 106件 | 102件 | 80件 |
| 冠動脈インターベンション件数 | 206件 | 212件 | 120件 |
| 糖尿病透析予防指導管理件数 | 452件 | 349件 | 280件 |

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|--------------------------|-------------|-------------|
| t-P A件数 | 27件 | 19件 |
| 在宅自己注射指導管理件数 | 3,251件 | 2,981件 |
| 糖尿病患者のうち在宅自己注射 指導管理割合 | 41.9% | 44.0% |

(3) 健康寿命の延伸に向けた予防医療の推進

- ・ 市が実施する特定健診や総合がん検診などの保健事業に積極的に協力し、検診枠の拡大、予防啓発活動、予防医療及び指導をさらに推進する。
- ・ 入院中に発見した軽症糖尿病患者を対象に健康サポート外来を開設し、重症化予防に取り組む。
- ・ 地域のニーズに沿った市民公開講座やSNS等を活用した予防啓発活動を推進し、市民の健康維持に寄与する。
- ・ 保健センターとの連携強化や地域のコミュニティの活用により、地域や学校における保健教育や予防に関する啓発を推進する。
- ・ 堺市医療圏がん診療ネットワーク協議会を通じて地域の医療機関と連携の上、がん予防対策等についての啓発を積極的に行う。

【新型コロナウイルス感染症を踏まえた緊急時対応計画】

- ・ ワクチン接種を含む新型コロナウイルス感染症予防について関係機関と役割分担の上、工夫した予防啓発を行う。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|------------|-------------|-------------|
| がん検診受診者数 | 7,681人 | 6,825人 |
| 特定健診受診者数 | 1,201人 | 972人 |
| 市民公開講座開催回数 | 14回 | 0回 |

3 患者に寄り添った信頼される医療の提供

(1) 医療安全対策・感染対策の徹底

- ・ 医療事故の予防及び再発防止策については、関連部門等との連携により専門的知識や現場の実情を加味した、組織横断的なルールづくりや医療の標準化等を図る。
- ・ インシデント・アクシデント報告の内容を分析の上対策を検討し、全職員に周知することで再発防止に取り組む。
- ・ 医療安全ラウンドを実施し、滞在的な事故要因に関する情報収集や分析を行い、事故の未然防止や再発防止に繋げる。
- ・ 高齢者の特徴に配慮した安全な服薬管理について、多面的な要素からの総合評価やポリファーマシーに関連した問題の確認など、処方見直しのプロセスを整備して、多職種が連携した中で服薬過誤やアドヒアランス低下の防止に取り組む。
- ・ 職員が安全に働ける環境調整として、暴言暴力対策チームを中心にして、発生の未然防止と環境づくりを強化する。
- ・ 検査結果の見落とし、説明漏れを未然に防止し、適切な治療につなぐ院内連携体制を強化する。
- ・ 多職種から構成するチーム（ICT、AST）による活動をさらに充実させ、院内での感染状況の評価や感染対策を的確に行い、新型コロナウイルス感染症等のクラスターを発生させないよう努める。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|---------------------|-------------|-------------|
| 医療安全研修参加率 | 98.7% | 97.0% |
| インシデントに対するアクシデントの割合 | 1.6% | 1.3% |
| 感染対策研修参加率 | 97.7% | 94.4% |

(2) 医療の質の向上

- ・ 臨床検査部門の品質と能力に関する要求事項の国際規格である ISO 15189 認定に向けて院内全体で環境を整備する。
- ・ 臨床倫理コンサルテーションチームを活性化させ、臨床倫理の専門家らとともに、実際に臨床現場で起こっている専門の倫理課題について対策を検討し解決を図る。
- ・ CGA（高齢者総合的機能評価）を導入し、個々に応じた最適な医療やケアの提供に努める。
- ・ 病院機能評価認定更新を契機に、PDCA サイクルやリスクマネジメント体制を評価した上で、最適な医療提供体制への改善活動につなげる。
- ・ 特定看護師を育成し、チーム医療の充実や在宅療養における患者・利用者の QOL の向上を図る。
- ・ 病院全体で臨床試験や治験を含めた臨床研究を推進できるように体制を整備する。また、治験の誘致活動を積極的に行う。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|------------------|-------------|-------------|
| クリニカルパス適用率 | 38.8% | 39.1% |
| 治験実施件数 | 23 件 | 21 件 |
| 周術期口腔ケア件数 | 1,818 件 | 1,612 件 |
| 薬剤管理指導件数 | 21,932 件 | 17,979 件 |
| 退院時リハビリテーション指導件数 | 1,487 件 | 1,656 件 |
| A C P 実績件数 | - | 452 件 |

(3) 患者の視点に立った医療・サービスの提供

- ・ 患者にとってわかりやすい説明文や同意書を用いたインフォームド・コンセントを徹底する。また、本院が掲げる「患者さんの権利に関する宣言」に則り、患者自身が納得して治療を自己決定できるよう支援する。
- ・ 患者や家族が入院後の治療や療養生活をイメージできるように、入院前からスクリーニングを実施し、関連部門へ繋げるとともに、退院後も安心して療養生活を過ごせるように支援する。

- ・ ホームページや広報誌等を通じ、地域における当院の役割や関係機関との連携について、患者及び市民に対しさらにわかりやすく情報発信する。
- ・ 待ち時間に関する実態調査を行い、現状及び待ち時間が長くなる原因を把握し、改善を行う。
- ・ 院内環境整備など、療養中でも安らぎと楽しみの空間を提供し、療養環境の充実を図る。
- ・ ボランティア役員や委託業者との業務報告会を定期的を開催し、情報共有や意見交換を行い、患者サービス向上に繋げる。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|-------------------------|-------------|-------------|
| 患者満足度調査結果 (満足割合)【入院】 | 88.3% | - |
| 患者満足度調査結果 (満足割合)【外来】 | 79.9% | - |
| 相談窓口寄せられた相談件数 | 25,639 件 | 23,089 件 |
| 投書箱寄せられた件数 | 301 件 | 162 件 |
| うちサンキューレターの割合 | 26.2% | 38.9% |

4 地域への貢献

(1) 地域の医療機関との連携推進

- ・ 地域医療支援病院として、地域完結型医療をより充実させるため、紹介患者のスムーズな受け入れや転院先となる後方支援病院を確保する。
- ・ 在宅治療に向け地域の医療、介護、福祉連携を強化するとともに、地域の窓口としての役割を担う。
- ・ 病病・病診間の診療情報を相互共有できるよう、引き続き地域医療連携ネットワーク協議会に参加する。
- ・ 急性期医療と地域包括ケアにおける地域連携 ICT（情報通信技術）の稼働に向けて堺市及び堺市医師会と連携し、院内・院外ともに運用を確立させ、円滑な病病・病診連携に寄与する。
- ・ 地域全体で質の高い薬物治療を提供するため、ポリファーマシー対策を強化すると

ともに、薬剤師退院時サマリーを用いて地域の医療機関や調剤薬局と連携する。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 紹介率 | 72.4% | 73.0% | 75.0% |
| 逆紹介率 | 88.6% | 84.3% | 79.8% |

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|--------------|-------------|-------------|
| 地域連携クリニカルパス数 | 19件 | 19件 |
| 地域連携パス適用患者数 | 286人 | 271人 |
| 開放型病床利用率 | 17.8% | 3.5% |
| 医療連携登録医数 | 864人 | 867人 |

(2) 医療従事者の育成

- ・ 医学生をはじめ看護学生や薬学部生等の実習について感染対策を徹底し安全を確保した上で受け入れ、地域の医療従事者の育成を行うとともに、学生に選ばれる質の高い実務実習を行う。
- ・ 地域完結型医療推進のため、地域の医療・介護従事者への研修や実技指導などを通して、積極的な交流や情報共有を行い、互いに学べる関係を構築し、地域の医療レベルの向上に貢献する。
- ・ 初期研修プログラムの改定に伴い、研修体制を見直し、初期研修から後期研修及び研修後のキャリアプランまでを連動させたシームレスな医療人育成システムの充実を図る。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|--------------|-------------|-------------|
| 医学生実習受入人数 | 92人 | 33人 |
| 看護学生実習受入人数 | 615人 | 455人 |
| 薬学部生実習受入人数 | 43人 | 52人 |
| 研修医による学会発表件数 | 40件 | 36件 |

(3) 健康を支える環境整備に向けた行政全般等との連携と協力

- ・ 医療、保健、福祉、教育などの分野において、担当部局と協力しながら行政機関の協議会や委員会に参画し、医療や予防、健康増進に寄与する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 効率的・効果的な業務運営

(1) 自律性・機動性・透明性の高い組織づくり

- ・ 法人として運営が適切に行えるよう、会議体の在り方を見直すとともに、組織の方針伝達や情報共有を進める。
- ・ 組織が硬直しないようにボトムアップを意識した柔軟な運営を行う。
- ・ 職員個々の能力や組織力の向上を図るために、病院全体の組織を適宜再編する。

(2) 法令・行動規範の遵守（コンプライアンス）

- ・ 医療従事者としてふさわしい倫理観と医療法など関係法令を遵守するために、病院の基本理念や法人の諸規定を周知するほか、コンプライアンス研修等を通して職員の意識を高める。
- ・ 医療法施行規則の一部を改正する省令に基づいて診療放射線に係る安全管理体制をより一層強化する。
- ・ 診療の質を維持しつつ、労働基準法、労働安全衛生法、働き方改革関連法など労働関係法令の遵守に努める。

(3) やりがいを感じ働くことができる職場環境の整備

- ・ 本院の目指すべき方向性と求める人材像に一貫性があり、全ての職員が理念・使命・価値観を共有し、職員一人ひとりが仕事を通じて自己実現することができる人材育成方針を策定する。
- ・ 役割と責任及び権限が明確な等級制度と、働きがいにつながる報酬制度を整備・構

築する。

- ・ 職員の努力と成果を、適正に処遇反映することができる人事評価制度を構築する。
- ・ 学ぶことの大切さを知り、知識の定着を実感することができる研修を企画・実施する。

(4) 働きやすい病院づくり

- ・ 職員が安全かつ安心して働き続けることができ、女性が働きやすい環境作りに向けて、変形労働時間制の運用など、勤務時間と休日・休暇制度の柔軟な運用を図る。
- ・ 医師の長時間勤務縮減に向け、勤務のシフト化に取り組む。また、フレックスタイム制の導入を検討する。
- ・ 特定看護師の育成や、医師事務作業補助者の配置による書類の代行入力など、人材の育成と積極的な採用により、タスクシフトを推進する。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 安定的な経営の維持

- ・ 安定した経営基盤を確立するため、地域の医療機関との連携強化や救急搬送患者の受け入れ、後方連携病院の確保を強化し、救急病床の効率的な利用により、新規入院患者の増加及び平均在院日数の短縮や診療単価の向上を図る。
- ・ 緊急手術にも対応可能な手術室の効率的な運用を図り、手術件数の増加にも対応するため手術室の増室や土曜日運用も検討し、より難易度や専門性の高い手術の増加を図る。
- ・ 診療報酬請求の精度向上のため、勉強会や研修会を開催し知識を深め、請求担当事務職員の技能向上を図るとともに、医療職に対して、コスト意識や算定の仕組みを理解できるような勉強会を開催する。
- ・ 診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、後発医薬品採用率 90%以上を維持する。また、経費については、多様な契約手法を導入する。
- ・ 病院戦略会議を中心に各部門の目標に対する進捗管理を適宜行い、経営改善活動につなげる。

| 目標指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 | 令和3年度 目標 |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|
| 経常収支比率 | 99.8% | 112.9% | 100.4% |
| 一般病床利用率 | 90.2% | 73.4% | 71.0% |
| 平均在院日数 | 9.7日 | 9.7日 | 9.8日 |
| 新入院患者数 | 14,788人 | 11,989人 | 11,500人 |
| 手術件数 | 5,870件 | 4,989件 | 5,000件 |
| 全身麻酔件数 | 3,247件 | 2,812件 | 2,800件 |
| 後発医薬品採用率 (数量ベース) | 90.9% | 93.5% | 90.0% |
| 入院患者延数 | 158,646人 | 128,607人 | 124,309人 |
| 外来患者延数 | 256,736人 | 212,233人 | 212,614人 |

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|---------------|-------------|-------------|
| 患者1人1日当たり入院単価 | 75,918円 | 90,815円 |
| 患者1人1日当たり外来単価 | 24,663円 | 27,182円 |
| 給与費対診療収入比率 | 52.6% | 57.2% |
| 材料費対診療収入比率 | 31.9% | 30.8% |
| 経費対診療収入比率 | 16.4% | 17.3% |

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 環境にやさしい病院運営

- ・ 環境問題への取り組みとして省エネルギー化を図るため、電気使用量の削減にも繋げる。
- ・ 環境負荷の少ない機器や物品の購入を推進するとともにゴミ分別の徹底を図るほか、紙のリサイクルをはじめとする廃棄物の削減に努める。

| 関連指標 | 令和元年度 実績 | 令和2年度 実績 |
|-------|------------------------|------------------------|
| 電気使用量 | 10,289,987 kWh | 10,194,828kWh |
| ガス使用量 | 909,745 m ³ | 902,477 m ³ |
| 水道使用量 | 152,845 m ³ | 139,601 m ³ |

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

（1）予算

（単位：百万円）

| 区分 | 金額 |
|----------|--------|
| 収入 | |
| 営業収益 | 21,448 |
| 医業収益 | 18,673 |
| 運営費負担金 | 2,086 |
| その他営業収益 | 689 |
| 営業外収益 | 291 |
| 運営費負担金 | 84 |
| その他営業外収益 | 208 |
| 臨時利益 | 9 |
| 資本的収入 | 520 |
| 長期借入金 | 420 |
| 運営費負担金 | 100 |
| その他資本収入 | 0 |
| 計 | 22,269 |
| 支出 | |
| 営業費用 | 19,805 |
| 医業費用 | 19,455 |
| 給与費 | 9,515 |
| 材料費 | 6,234 |
| 経費 | 3,607 |
| 研究研修費 | 99 |
| 一般管理費 | 349 |
| 営業外費用 | 169 |
| 臨時損失 | 9 |
| 資本的支出 | 1,857 |
| 建設改良費 | 675 |
| 償還金 | 1,179 |
| その他投資 | 2 |
| 計 | 21,840 |

（注）計数は原則としてそれぞれの表示単位未満を四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

(2) 収支計画

(単位：百万円)

| 区分 | 金額 |
|----------|--------|
| 収入の部 | 21,831 |
| 営業収益 | 21,544 |
| 医業収益 | 18,628 |
| 運営費負担金 | 2,086 |
| 資産見返負債戻入 | 141 |
| その他営業収益 | 689 |
| 営業外収益 | 278 |
| 運営費負担金 | 84 |
| その他営業外収益 | 194 |
| 臨時利益 | 9 |
| 支出の部 | 21,777 |
| 営業費用 | 20,826 |
| 医業費用 | 20,466 |
| 給与費 | 9,750 |
| 材料費 | 5,710 |
| 経費 | 3,343 |
| 研究研修費 | 94 |
| 減価償却費 | 1,569 |
| 一般管理費 | 360 |
| 営業外費用 | 942 |
| 臨時損失 | 9 |
| 経常利益 | 54 |
| 純利益 | 54 |
| 目的積立金取崩額 | 0 |
| 総利益 | 54 |

(注) 計数は原則としてそれぞれの表示単位未満を四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

(3) 資金計画

(単位：百万円)

| 区分 | 金額 |
|----------------|--------|
| 資金収入 | 27,019 |
| 業務活動による収入 | 22,369 |
| 診療業務による収入 | 18,673 |
| 運営費負担金による収入 | 2,170 |
| その他業務活動による収入 | 1,526 |
| 投資活動による収入 | 100 |
| 運営費負担金による収入 | 100 |
| その他投資活動による収入 | 0 |
| 財務活動による収入 | 420 |
| 長期借入れによる収入 | 420 |
| その他財務活動による収入 | 0 |
| 前事業年度よりの繰越金 | 4,130 |
| 資金支出 | 27,019 |
| 業務活動による支出 | 19,985 |
| 給与費支出 | 9,780 |
| 材料費支出 | 6,234 |
| その他業務活動による支出 | 3,971 |
| 投資活動による支出 | 675 |
| 固定資産の取得による支出 | 675 |
| その他投資活動による支出 | 0 |
| 財務活動による支出 | 1,179 |
| 長期借入金等の返済による支出 | 1,179 |
| その他財務活動による支出 | 0 |
| 翌事業年度への繰越金 | 5,180 |

(注) 計数は原則としてそれぞれの表示単位未満を四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。